

<p>宣言内容</p>	<p>「みんなが食べられる安心」を地域の中で育むため、食の多様性と減災について学び合う活動を行います。</p> <p>食物アレルギー、宗教・文化、ライフスタイルなど、食にはさまざまな背景があり、そうした違いを知るとともに、既存の防災食・非常食や日常食品の中から、無理なく取り入れられる選択肢を見つけ、実際に試してみる機会をつくれます。</p> <p>「作らなければならない備え」ではなく、「選んでおける備え」を地域に広げ、災害時にも誰もが安心して食につながる地域づくりを目指します。</p>
<p>取り組み期間・時期</p>	<p>令和8年7月～令和9年3月まで4回</p>
<p>取り組みの概要</p>	<p>食の多様性と減災を身近に考えるため、以下の取り組みを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様な食のあり方を知る学習機会の実施 食物アレルギー、宗教・文化、ライフスタイル、健康上の理由などにより、食べられるものが人によって異なることを学ぶ機会をつくれます。 既存の防災食・非常食・日常食品の紹介 アレルギー対応食品やハラール、ヴィーガン等に配慮された既存の商品を紹介し、すでにある選択肢を知ってもらう機会をつくれます。 多様な食に配慮した食品の試食会の実施 実際に見て、食べて、味や使いやすさを体験することで、家庭や地域で取り入れやすい備えにつなげます。 無理なく続けられる備え方の情報発信 既存の商品や日常食品を活用し、ローリングストックなど、生活の中に無理なく取り入れられる備え方を発信します。 食を通じた地域の理解と交流の場づくり 試食や情報交換を通して、食の違いを地域で理解し合い、災害時にも配慮し合える関係づくりを進めます。